様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １７ 日現在

機関番号：１２６０４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ１１８０８

研究課題名（和文）多様化する中華学校における音楽教育の民族音楽学的研究

研究課題名（英文）Ethnomusicological Research on the Music Education at Diversified Chinese Schools in Japan

研究代表者
有澤　知乃（ARISAWA, Shino）

東京学芸大学・大学教育研究基盤センター機構・准教授

研究者番号：９０５８８９０６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,400,000円

研究成果の概要（和文）：日本の中華学校における音楽教育では、大陸系と台湾系とで教材や授業方法に大きな違いが見られた。大陸系の横浜山手中華学校では、中国への祖国愛を歌った曲や中国の民謡・童謡が多く取り上げられつつも、授業の半分は日本の教科書を用い唱歌やリコーダーが教えられ、両国の言語文化を学ばせる教育が行われている。一方、台湾系の横浜中華学院では台湾から取り寄せた教科書が中心であり、日本の教材は補足的な扱いに留まっている。また大陸系、台湾系の相違に加えて、老華僑と新華僑の価値観の違いや、中国台湾にルーツを持たない日本人児童生徒の増加もあり、彼らの音楽教育に対する期待や態度が多様化する中、学校側の模索が続いている。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、これまで先行研究がなかった中華学校における音楽教育の基礎的研究の第一歩となった。教材の精査、授業観察、音楽教諭への聞き取りによって、教育内容や授業目標の大きな変化や、教育現場の様々な課題が明らかになった。中華学校というと、概して「民族教育」や「愛国教育」のイメージが強いが、中国や台湾の政治社会情勢を色濃く反映してきた歴史はあるものの、現在の音楽教育の実践からは、多文化共生社会における多様な文化の共有と互いの価値観の理解を推進する要素もあることが分かった。

研究成果の概要（英文）：With regard to music education at Japan’s overseas Chinese schools, a significant difference can be found in teaching materials and methods. At the Yokohama Yamate Chinese School associated with Mainland China, songs that describe a love for China as a motherland, Chinese folksongs and children’s songs are part of the curriculum, whereas a half of the music lessons, (e.g., Japanese shouka songs and the recorder) are also provided by means of a Japanese music textbook. On the other hand, at the Yokohaa Overseas Chinese School associated with Taiwan uses Taiwanese music textbooks, and the Japanese textbook is only used as an add-on. In addition to the difference between pro-Mainland China and pro-Taiwan students, due to the variety between oldcomers from China and newcomers, as well as an increasing number of Japanese students who have no roots in China or Taiwan, their music education has become more challenging in terms of setting goals.

研究分野：民族音楽学

キーワード：中華学校　音楽教育

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

日本華僑の子ども達に対する音楽教育の変遷や多様性については、民族教育や愛国教育という固定的なイメージの陰に隠れて、なかなか光が当てられてこなかった。音楽は文化の理解や異文化交流の重要なツールである。歌に描かれた世界や楽器の歴史などを学びながら、子どもたちは国や民族の歴史・風土・ことば・価値観などを知性と感性で捉えていく。音楽を共有することで、彼らは帰属意識を高めると共に他者を理解し受け入れるようにもなる。近年の中華学校では、日本に定住して長い老華僑の他に、１９７０年代末以降に来日した新華僑が増加し、さらに両親ともに中国にルーツを持たない日本人の子どもが加わりつつある。社会情勢の変化や児童生徒の多様化が進む中、中華学校は音楽教育を通してどのような価値観や感性を育もうとしているのかという問いに取り組む。

２．研究の目的

移民研究やマイノリティ研究において、音楽や芸能は着目されやすい要素である。祭りなどで行われる民族舞踊や民族音楽は、彼らのエスニック・アイデンティティの表現手段として最も分かりやすいものだ。それは祭りが「外」に向かって行われるイベントだからである。外に向かうパフォーマンスでは、マイノリティが自らのアイデンティティやコミュニティへの帰属意識を再確認すると同時に、ホスト社会に対して自分たちの存在をアピールする場でもある。そこでは、「こう見られたい」というコミュニティの形が示され、内部の多様性や対立は意図的に覆い隠されたりして見えにくくなっている。本研究は、学校というコミュニティの日常にフォーカスすることで、これまで見えにくかったマイノリティ社会のリアリティに迫ろうとするものである。本研究では、これまで全く研究されてこなかった中華学校の音楽教育という新しい課題に着手し、この分野の基礎研究に着手すると共に、マイノリティの音楽研究や華僑研究に、新たな角度からの問題提起を行うことを目的とする。

３．研究の方法

日本にある中華学校 5 校のうち、まずは横浜山手中華学校と横浜中華学院を対象にフィールド調査を行う。音楽の授業で用いられている教科書やその他の教材を収集し、教えられている楽曲の作曲年代、作曲者・作詞者、社会的背景などを検証する。音楽の授業を観察し、教授内容や教授方法に加えて、児童の反応を記録する。さらに、音楽担当教諭への聞き取り調査を実施し、使用教材の変化や教材選択の背景に加えて授業実践における問題点等を明らかにする。

４．研究成果

文化大革命期（1966～1976）の中国では、革命思想が文学、絵画、演劇、歌によって盛んに喧伝された。その中でも「文革歌曲」や「革命歌」などと称される歌には 100 曲を超える膨大な数がある。中華人民共和国（中国）を支持する大陸系の教員と保護者が創設した横浜山手中華学校では、その教育内容も中国共産党体制下の教育へとシフトしていった。音楽教育においても、社会主義体制を賛美する曲が教材として用いられた。さらに文革期になると、中華学校でも児童生徒が中国大陸の少年兵のように赤いスカーフを首にき、活動するようになった。社会主義体制を賛美する歌や毛沢東語録歌を歌い踊るようになった。この時期に教材となった曲には、社会主義体制や毛沢東支配を賛美する《社会主义好》（社会主義は素晴らしい）、《东方红》（東方は赤い）、《我爱北京天安门》（天安門を愛す）、《火车向着韶山跑》（列車は韶山に向かい走る）や、毛沢東語録歌の《争取勝利》（勝利を勝ち取れ）、《爹亲娘亲不如毛主席亲》（父母の愛も毛主席の愛には勝らない）、抗日戦争の歌《保卫黄河》（黄河を守れ）、紅衛兵の歌《中國少年先鋒隊》（中国少年先鋒隊）、労働の尊さを歌った《卖报歌》（新聞売りの歌）、《劳动最光荣》（労働は最も光栄だ）等がある。

文化大革命の終焉後には、横浜山手中華学校ではこれらの革命歌曲はほとんど教えられなくなった。新たに教えられるようになったのは、《大海啊,故乡》（大海よ、我が故郷）、《爱我中华》（我が中国を愛す）、《国旗国旗真美丽》（国旗よ国旗,本当に美しい）等がある。これらは友愛、家族愛、故郷愛やこれらの対象への忠誠心を歌ったものや、多民族国家中国の統合を称揚するもの、そして子ども達が中国の国旗を讃えるもの等である。当時、中国で流行った映画音楽や、文革後の新しい社会を反映した歌曲が横浜山手中華学校でも教えられるようになった。これらの歌曲は扇動的な革命曲とは異なりゆったりとした曲調のものも多く、時代の変化を感じさせるものであった。一方で、音楽担当教諭はこの時期、革命歌を授業で教えることもあった。例えば《保卫黄河》（黄河を守れ）や《我爱北京天安门》（天安門を愛す）等を、歴史を学ばせる意図で教えたこともあり、その際には保護者や児童生徒から時代遅れである等の抗議も受け、これらの教材はほとんど用いられなくなっていった。

1990 年代頃からは、「政治的」ではなく「日常的」な音楽が教育の中心となっていった。例えば低学年の児童が歌を通して信号機の色を学ぶ《红眼睛 绿眼睛》（赤い目[赤信号]、青い目[青信号]）や、《山谷回音真好听》（山びこはとても美しい）等の自然を愛でる曲のほか、道徳的な

曲《咱们从小讲礼貌》（私たちは小さいころから礼儀に気を付けます）などが導入されるようになった。また、この頃から、日本の学校で使われている音楽の教科書から、《もみじ》や《ふじの山》などの唱歌が教材として用いられるようになり、日本社会に根付き共存していくための文化的な素養を身につけさせる教育方針へと転換していったことがうかがえる。

現在の横浜山手中華学校における音楽の授業は、学校独自で発行している教科書『音乐』（音楽）と、教育芸術社発行の『小学生のおんがく』が併用されている。独自の教科書では、低学年のものは、前述の《红眼睛 绿眼睛》（赤い目[赤信号]、青い目[青信号]）のように生活に関するものや、自然に親しむものが中心となっている。直接中国を象徴するような曲や単元は《国旗国旗真美丽》（国旗よ国旗,本当に美しい）や中華人民共和国国歌以外はみられない。しかし二年次以降は、中国の少数民族の民歌（民謡）が中国の地図と共に掲載され、少数民族の文化を学ぶ一環で教えられるようになる。民謡以外にも、長江や黄河などが歌詞に現れる《大中国》（おおきな中国）や、《小朋友爱祖国》（子供たちは祖国を愛します）など、中国への祖国愛を涵養する歌も取り上げられている。音楽の授業で使用される言語は、中国語半分、日本語半分となっており、独自の中国語の教科書を教えている時間帯は中国語で、日本の教科書を用いている時は日本語による指導が行われている。（参考：表１，同校で用いられている小学３年生用の音楽科教科書の項目。）

一方の横浜中華学校（台湾系）では、台湾から教科書を取り寄せて使用しており、音楽では一二年生は『生活』（南一書房）を、三年生からは『藝術与人文』が用いられている。これらの教科書では、音楽、体育、美術の要素が一冊にまとめられたものとなっている。台湾の教科書には、《布穀》（カッコウ）や《祝你耶誕快樂》（おめでとうクリスマス）など、欧米の歌謡に中国語をあてたものが多く取り上げられており、日本の教科書との共通点がみられる。他に、台湾（中華民国）の国歌と国旗の歌が掲載されているが、それ以外は特に台湾への祖国愛を歌ったものや郷愁を誘う曲は掲載されていない。なお、同校では日本の教科書『小学生のおんがく』（教育芸術社）も用いているが、教員が必要と考える部分を抜粋しコピーして配布するに留まっている。また、授業はほとんど全て中国語（マンダリン）で行われている。（参考：表２，同校で用いられている小学１年生用の教科書『生活』より音楽に関する項目。）

表１　横浜山手中華学校『音乐』（三年生）の項目

	目次（原題）	日本語訳（筆者による）	作詞	作曲
1	《友谊花开万里香》	《友好の花が咲き万里に香る》	叶伟	伟才 叶伟
2	学唐诗《春晓》	唐詩を学ぶ《春暁》		
3	《我们大家多快活》	《私たちはみな元気》	朱树华	
4	《小青蛙，你唱吧》	《カエルちゃん、歌いなさい》	金波	新声
5	吹竖笛真美妙	リコーダーを吹くのはとても素晴らしい		
6	《小海螺》	《小さなホラ貝》	周威 吴建新	刘雁西
7	《卖报歌》	《新聞売りの歌》	安娥	聂耳
8	聂耳	聂耳（作曲家）		
9	认一认	理解しよう（全音符・四分音符・四分給付・・・）		
10	写一写	書いてみよう（ドレミファソラシド）		
11	《蜗牛与黄鹂鸟》	《カタツムリとコウライウグイス》	陈弘文	林建昌
12	笛子学习表	リコーダーの学習表		
13	《快乐的音乐会》	《楽しい音楽会》	马华	潘振声
14	《凤阳花鼓》	《風陽の花鼓》安徽省民謡	不詳	不詳
15	民族乐器介绍	民族楽器紹介（木魚など）		
16	《唐僧骑马咚得咚》	《唐僧が馬に跨りドンドン》	樊家信	
17	读谱知识	楽譜を読む知識（小節線等）		
18	认一认	理解しよう（スラー、スタッカート・アクセント等）		
19	《雪花》	《雪片》（雪花）	望安	马成
20	《咱们从小讲礼貌》	《私たちは小さいころから礼儀に気を付けます》	刘风	李群
21	《横滨山手中华学校校歌》	《横浜山手中華学校校歌》	马广秀	黄伟初
22	西洋乐器介绍	西洋楽器紹介（トランペット・ホルン等）		

23	二年级学过的歌《娃哈哈》	二年生で学習した歌《わっはっは》		
24	《中华人民共和国国歌》	《中華人民共和国国歌》（義勇軍行進曲）	田汉	聂耳
25	《我真棒》	《私はとてもすごい》		

表２：横浜中華学院で使用されている『生活』（一年生）より音楽に関する項目

	目次（原題）	日本語訳（筆者による）	作詞	作曲
1	節奏練習《動手拍拍看》	拍子練習《手をたたいてみよう》		
2	律動歌曲《教室好幫手》	リズム歌曲《教室の良いお手伝いさん》	何育真	
3	聽唱歌曲《我願做個好小孩》	聴いて歌う《よい子になりたい》	不詳	
4	律動歌曲《猜拳》	リズム歌曲《拳を打つ遊び（じゃんけん）》	孫素瑀（原名 孫素意）	
5	節奏練習《游戲安全》	拍子練習《安全に遊ぶ》	何育真編	
6	聽唱練習《請你幫助我》	聴いて歌う練習《助けてください》	鄭小綠	
7	聽唱歌曲《布穀》	聴いて歌う《カッコウ》（ドイツ民謡）	不詳	
	節奏練習《風的 聲音》	拍子練習《風の音》	何育真編	
8	律動練習《風的 聲音》	リズム練習《風の音》	何育真編	
9	欣赏歌曲《四季—冬》	鑑賞歌曲《四季—冬》		韋瓦第
10	節奏練習《冬天》	拍子練習《冬》	Flower Fairy 編	
11	聽唱歌曲《恭喜恭喜》	聴いて歌う《おめでとう》	陳歌辛（1914-1961）	
	補充歌曲	補足の歌		
12	聽唱歌曲《國歌》	聴いて歌う《国歌》	國父訓	程懋筠
13	聽唱歌曲《國旗歌》	聴いて歌う《国旗の歌》	戴傳賢	黄自
14	聽唱歌曲《平安回家歌》	聴いて歌う《安全に家に帰る歌》（It's a small world）		
15	聽唱歌曲《放學歌》	聴いて歌う《放課後の歌》（中国童謡）		
16	聽唱歌曲《我們的學校》	聴いて歌う《私たちの学校》	不詳	
17	聽唱歌曲《老松樹》	聴いて歌う《老松の木》	馬晉封	盧巧星
18	律動歌曲《小蜜蜂》	補足の歌《小さな蜜蜂》(ドイツ童謡)	不詳	
19	節奏念謠《風婆婆》	補足の歌《風婆さん》（湖南省童謡）		
20	律動歌曲《落葉》	リズム歌曲《落ち葉》	不詳	
21	聽唱歌曲《聖誕鈴聲》	聴いて歌う《ジングルベル》	王毓騵	皮爾彭
22	聽唱歌曲《祝你耶誕快樂》	聴いて歌う《おめでとうクリスマス》(We wish you a Merry Christmas)		
23	聽唱歌曲《新年新衫》	聴いて歌う「新年の新しい服」（台湾語の歌）	潘長振	
24	欣賞歌曲《新年歌》	鑑賞歌曲「新年の歌」	不詳	黄友棣

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 Arisawa, Shino	４．巻 105
２．論文標題 Music Education at Overseas Chinese Schools in Japan: The Changing Relationship Between the Homeland and the Host Society	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Senri Ethnological Studies	６．最初と最後の頁 269-283
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　1件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 Arisawa, Shino
２．発表標題 Chinese Revolutionary Songs Passed on at the Overseas Chinese Schools in Japan
３．学会等名 International Council for Traditional Music（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 有澤知乃
２．発表標題 華僑華人文化の実践における自他の境界意識
３．学会等名 日本民俗音楽学会（招待講演）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関